

京都建築事務所

想いをカタチに、想い以上の感動を



株式会社 京都建築事務所
代表取締役社長 細見 建司

〒604-8083

京都市中京区三条通柳馬場東入
中之町10番地

TEL:075-211-7277

FAX:075-211-7270

<http://www.kyoto-archi.co.jp/>



医療福祉施設の新築、増築、改修等、お気軽にお問合せください。

第11回釜ヶ崎のまち短期留学

日時：7月12日（金）10時～17時ごろ

テーマ：変容する日雇い労働者のまち釜ヶ崎

—なぜ、いま釜ヶ崎に注目するのか—

参加費：7,000円（障害者・学生6,000円／昼食代込）

〈スケジュール〉※予定

- 10：00～12：00 釜ヶ崎まち歩き（水野阿修羅さん）
- 13：20～14：20 荘保共子さん（認定NPO法人こどもの里 理事長）
- 14：40～15：25 小林大悟さん（認定NPO法人釜ヶ崎支援機構 事務局長）
- 15：30～16：15 白波瀬達也さん（関西学院大学人間福祉学部 教授）
- 16：20～16：50 小林大悟さん・白波瀬達也さん 質疑応答

〈問合せ〉総合社会福祉研究所
TEL06-6779-4894 FAX06-6779-4895
ホームページ：<http://www.sosyaken.jp/>
E-mail：mail@sosyaken.jp

申 →
ち 込
ら 込
か み
ら は
ら





子どもの姿から学ぶ実践

京都市西京区にあるみつばち保育園。緑、土、太陽、京都のゆたかな自然と触れ合う保育を大切にしています。

オープンホールの「大きなうち」で、毎日家族のように関わり合いながら過ごす、みつばちっこ。「あっ！ ここまでおててとどいたやん。すごいな〜」。大きいお兄ちゃん、お姉ちゃんたちは赤ちゃんのことが本当に大好きです。ゼロ歳児さんにとっては初めての保育園での暮らし。いっぱいまなざし・人の輪の中に包まれて大きくなっていくよ。



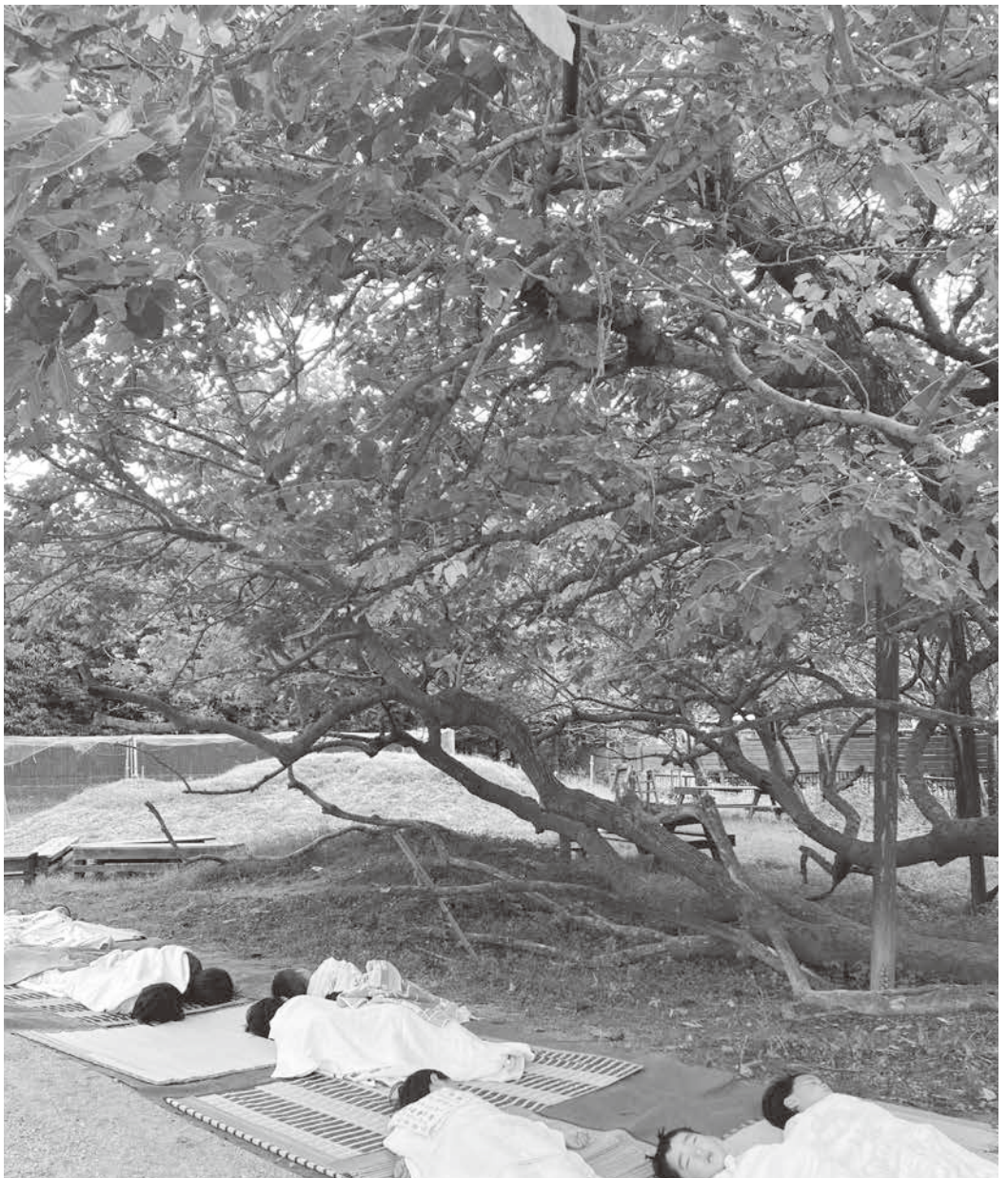
「いっぱいお水いれて、あっちにジャーしたいねん」。まだまだ言葉にはならないけど……この小さな身体の隅々と大きな心に、あふれんばかり、ジブンで実現したい思い、子ども自身が自ら生み出す発達がある。

ゆったりと時間が流れる。そんな本園の園庭で、ただただ水と戯れながら、ステキで愛おしい「子ども時間」です。



小さな頃から年長さんの畑仕事を目にし、3・4歳児になると、スコップやシャベルも手にしながら、道具の使い方も段階を経て理解吸収していきます。

そして5歳児の春。いよいよあこがれの鋤くわを手に、「働くみつばちっこ」。お山の保育園の春は、畑仕事から1年がはじまります。裏山から一輪車で集めて運んできた腐葉土をすきこみ、耕し「お野菜が元気に育つように、まっくろフワフワで栄養たっぷりの土にするで」と、大汗かいて、おおはりきり。



畑仕事や外遊び、大好きなリズムで、心と身体を存分に使い切ったの午前中。おいしい給食を食べたあとは「今日はここで寝るわー」。自分たちで決めて、仲間と一緒にシートやござを準備。

「なんか、お日様がキラキラやな〜」「葉っぱの音がする!」「あっ、あの雲、なんかゾウさんの形してんで〜」「この前、あそこ（桑の木の上を指さして）までAちゃんと登ったで」「先生も一緒に寝てもええで〜」。大きな桑の木の木漏れ日の中で楽しいおしゃべり。そしてあっという間にぐっすりおやすみ、気持ちいいね。（写真・文 社会福祉法人みつばち福祉会 丸国朋子）

●特集● 若者の抛りどころを社会に

若者支援を通して感じる文化的な経験の大切さ	永井 悠大	10
若者が自分自身の人生を歩めるように	小林 大悟	14
「ヨリドコハウス」で生活する加藤さん（仮名）にお話をうかがいました		18
困ったときに相談でき、動いてくれる大人との関係を	寺内 順子	20
若者の育ちや挑戦を保障できる社会に	田中れいか	22
社会的養護における自立支援の前進から	武藤 素明	26

●トピックス●

障害のある子どもたちの自立支援と課題	宮川 涼	32
住まいの貧困を考える		
～Ⅳ困難を抱えた若者への支援と住まい②～	藤原 望	36
社会保障・社会福祉こそ経済政策のかなめ		
～日本再生のための「プランB」とは～	兪 炳匡	40
京都講座 分野を超え、視野を広げ、次世代リーダーの養成に		46

●連載●

〈新連載〉なかまと職員と家族と、ともに築く暮らしの場		
息子の自律を願い、歩んできた20数年	播本 裕子	50
〈新連載〉続・ヘルパー歳時記	小川 栄二	54
その人らしい生活を支えるホームヘルパーの実践を守りたい		
WORK WORK——わくワク——		
協力し合いながら製品づくり	ドリームクラブハウス	58
JOB&ACTION 全国福祉保育労働組合（38）		
率直に自分の思いを出しあえてる？ 心理的安全性を高めよう②		60
私の履歴書 社会福祉経営全国会議（38）		
未来に生きる子どもたちへ	武尾 正信	62
阿修羅がゆく わたしが好きな釜ヶ崎（58）	水野阿修羅	64
相談室の窓から		
ここにゆとりをもって楽しい子育てを①	青木 道忠	66
育つ風景 いわき雑魚塾と出会って	清水 玲子	68
映画案内 『PERFECT DAYS』	吉村 英夫	70
現代の貧困を訪ねて	生田 武志	72
釜ヶ崎で毎年続く真冬の路上死		
似らすとれーしょん道場 似顔絵まんがアート		
不適切はおもしろいのじゃ	ラッキー植松	74
ホームレスから日本を見れば	ありむら潜	76
花咲け！ 男やもめ	川口モトコ	77

●表紙の絵●
神門やす子



お知らせ

第37回社会科学・社会福祉基礎講座 30／第29回社会福祉研究
交流集会 in 関東 31

みんなのポスト 48／福祉の動き 78／今月の本棚 81

●グラビア● 子どもの姿から学ぶ実践

子どもたちに ちょっといい未来を

韓国・青年ユニオン事務局長

キム
金 知炫

「私たちは、常に誰かの犠牲のおかげで生きています。それを忘れないでください」。大学二年生のときの社会問題論の授業で、クレインの上に立ってストライキする労働者の写真を見せながら、先生が話した言葉です。その写真と言葉が与えた響きは、いまでも私のなかに残っています。大学に通うこと、選挙で投票をすること、アルバイトをして最低賃金を受け取るのがあたり前ではないことを、その授業を通じて学びました。

先人の誰かの叫びや犠牲がわかった以上、私も何かをしなければいけないと思いました。冬休みに市民運動団体である「参与連帯」の公益活動家学校に参加し、活動家の人生、労働権と人権などについて目覚めました。また、少額ではありますが、参与連帯やグリーンピース、グッドネーバースなどの運動団体への寄付もしはじめました。

漠然と活動家として働くことも考えましたが、現実はまだ稼がないといけない状況で、大学を卒業後、水原市青年支援センターで社会人としての第一歩を踏み出しました。青年のためのスペース提供、プログラム運営が業務内容と聞いていましたが、実際は広報、施設管理などの業務のほかに、二〇件を超える公募事業チームの管理も一人でやらなければいけませんでした。週末出勤はもちろん、夜中二時に仕事が終わる日も多かったです。週八〇時間働いても、夜勤時間の制限があつて、超過勤務手当も代替休暇ももらえませんでした。

「これはなんか違う……」と思い、京畿^{キョンギ}青年ユニオンに助けを求めました。労働法など関連情報をもらうことで、息を吹き返した気がしました。私の境遇に共感し、応援してくれる青年ユニオンから力をもらうなか、自然に私もユニオンの一員になりたいと思うようになりました。青年ユニオンの組合員になったのが二〇一八年で、二〇二二年一月から青年ユニオンの政策チーム長、二〇二四年二月からは事務局長として働いています。



キム・ジヒョン

青年ユニオン政策チーム長を経て、2024年に第八期事務局長に当選。青年ユニオンは、韓国の青年たちが2010年に創設した労働組合。青年（15～39歳）なら雇用形態に関係なく誰でも加入できる。労働相談はもちろん、青年の雇用安定、労働権保障、生活安定のための立法活動、青年労働の具体的な実態を社会に発信するための調査活動にも力を入れている。

常勤の活動家になると、討論会や記者会見、さまざまな行事であつという間に時間が過ぎていきます。勤務時間はもちろん、夜や週末にもスケジュールが入りますが、最低賃金水準の低い給料に、「これが正解なのだろうか……」という葛藤も感じます。月五〇万ウォンの「青年希望積立預金※」を払うのもたいへんですし、一万ウォンくらいの昼食代も負担に感じます。

ですが、労働運動にかかわるなかで、社会をみる目と大切な経験をいただいています。とくに、地域間格差問題、地域青年働き口事業にとりくみながら、地方の青年たちの置かれた状況に目が向きます。すぐに解決できる問題ではないため、もどかしさも感じますが、「誰かがやってくれるだろう」という無責任な言葉で片付けたくないです。

昨年、青年ユニオンの忘年会で、「これまでの活動を映画のジャンルで例えるなら？」と聞かれました。私の答えは、「sad movie」でした。活動するなかで、うれしくてワクワクすることより、悲しくて心が痛むことが多かったからです。慣れるようでなかなか慣れない活動家の人生の断面です。

それでも、私たちの目で確かめたことを社会に発信し、少しずつでも社会に影響を与えるこの仕事が好きです。世の中が後退しているように感じるときもあります。険しい道でも地道な努力を積み重ねれば、未来の子どもたちはいまよりちよつといい社会を生きることができるのではないのでしょうか。私が大学二年生のときに感じたことのように……。それでいいと思うのです。

（和訳・編集室 朴）

※青年希望積立預金

青年の脆弱な経済基盤の補完、経済的自立のために、一九〜三四歳の若者で、総給与三六〇万ウォン以下の人を対象に、月ごとの積立金最大五〇万ウォン、契約期間二年の積立預金に対して、年利最大約九%が適用される金融商品。

若者の抛りどころを社会に

二〇〇八年、リーマン・ショックによる不況が日本を襲ったときには、大量の「派遣切り」がおこなわれ、「寮付き就労」をしていた若年労働者が仕事と同時に住まいを失うという事態が社会問題となりました。東京では「年越し派遣村」が開設され、ネットカフェや二四時間営業のファストフード店を転々としながら生活する「ネットカフェ難民」という言葉も広まりました。

そうした状況を受け、住まいは人権であるという居住保障の大切さや、仕事よりまずは住まいを保障する必要があるという「ハウジングファースト」の視点、これまで社会保障・社会福祉の対象とされてこなかった「若者支援」の必要性などが、支援現場や識者から発信・実践がなされてきました。

リーマン・ショックから一五年あまりが経ちますが、若者が置かれている状況は、よりきびしくなっています。フリーランスや業務委託という不安定な働き方が広がり、労働の不安定化はいっそう進んでいます。いっぽうで、若者の自立を支える役割が期待されてきた「家族」の機能は、どんどん脆弱になっています。頼れる家族がない、家が安全で安心できる場所ではない若者が、自身の将来に目を向ける余裕もなく不安定な労働に就かざるをえなかったり、性被害など危険な状況にさらされていることは、本誌でも仁藤夢乃さん（一般社団法人Colabo）の活動や、今井紀明さん（認定NPO法人D×P）の活動など、たび

たび発信をしてきました。

今号の特集では、大阪で活動する認定NPO法人HomeDoor、認定NPO法人釜ヶ崎支援機構、一般社団法人シンママ大阪応援団の方々に、それぞれの団体につながった若者が置かれている状況や抱えている困難、支援と課題についてうかがいました。どの団体も、物理的な住まいや居場所の提供から、生きていくために必要なさまざまな情報、困ったときに頼れる関係性など、家族の代わりに若者の「抛りどころ」となるべく活動を展開されています。

こうしたおもに民間団体が中心となり広がっている若者支援と、家族の代わりに国が責任をもつて子どもの権利を守る社会的養護の活動は、密接につながり、また大きく重なっています。とくに近年、社会的養護における自立支援やアフターケアの充実が図られていくなかで、その重なりはどんどん大きくなっていきます。二〇二四年四月から施行される改正児童福祉法では、いよいよ支援の必要な子どもの年齢制限が撤廃されることとなり、年齢で区切ることなく支援を継続できるようにになりました。

若者の自立が家族の有無や力量に左右されず、すべての若者が自分自身の人生を歩めることを社会が保障し、社会の中に若者の抛りどころを増やすために、若者にとって社会保障・社会福祉はどうあるべきなのか、考えたいと思います。

先駆的な挑戦である若者支援は、NPOをはじめとする民間団体がその中心を担っているのが現状です。現場の実態を発信し、実践を積み重ね、制度化を求める運動と同時に、そうした民間団体のいまの活動そのものを支えることも、私たちにできる大切な活動であることも、一緒に考えたいと思います。

(編集主任 申)